

ガラスの使い分けで、 断熱性能と日射熱取得をセレクトできます。

防火戸FG-H/Lは、お住まいの地域や部屋のプランなど

ニーズに合わせたガラス選択が可能です。たとえば、夏の日射熱を抑えて暑さ対策をするなら

「グリーン」のLow-Eガラス、冬に暖かい日差しを採り入れるなら「クリア」のLow-Eガラスがおすすめ。

2つのガラス設定で、断熱性へのこだわりにも、日射熱取得へのこだわりにもお応えします。

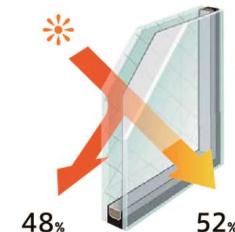
日射熱を抑えるなら Low-Eグリーン

窓からの熱の出入りを防いで、外気温に左右されにくい快適な室内環境をつくる。断熱性を高めることは冬の寒さはもちろん、夏の暑さ対策にもつながります。断熱性能にこだわるなら、グリーンがおすすめ。優れた断熱性能で、冷暖房の熱ロスを抑えます。



日射熱を採り込むなら Low-Eクリア

室内に採り込む太陽エネルギーの割合を表す「日射熱取得率」。この数値が高いほど、日射熱を多く採り込むことができ、冬の暖房費低減につながります。クリアは52%という高い日射熱取得率で、冬のお部屋に暖かい日差しをたっぷり採り込むことができます。



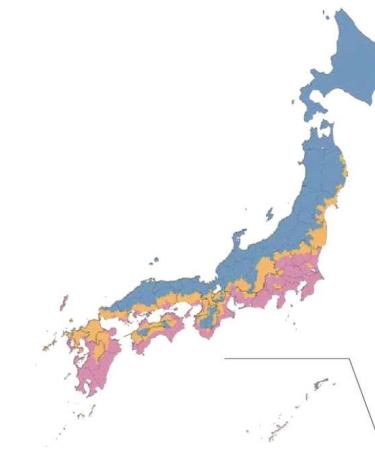
※Low-E複層ガラス(6.8-A12-3)の場合

地域や部屋の方角に合わせたガラス選び

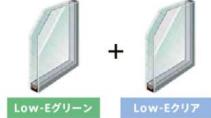
住まいの省エネ性を考える際、窓の断熱性能と日射熱の活用は重要なポイント。

お住まいの地域や部屋の方角に応じて、ぜひ最適なガラスをお選びください。

地域に合わせてガラスを選ぶ例



日射量が少なく寒い地域
日射の影響が少ないので断熱を優先し、Low-Eグリーンを活用。日差しが入る部屋にはLow-Eクリアも検討。



日射量が少なめで
比較的暖かい地域
冬、暖かい日差しを採り込むために、Low-Eクリアの活用がおすすめ。

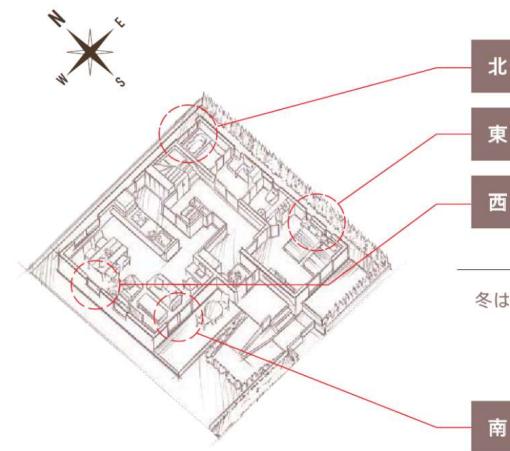


日射量が多く暖かい地域
夏の暑さ対策を優先し、Low-Eグリーンの活用がおすすめ。



※参考：建築環境・省エネルギー機関「住宅の省エネルギー基準の解説(第3版)平成21年7月発行」

部屋の方角に合わせてガラスを選ぶ例



断熱性を高めて、しっかり寒さ & 結露対策



※冬の暖かい日差しを積極的に採り込みたい場合は、東西面をLow-Eクリア+シェードにすると効果的



冬は暖かい日差しを採り込み、夏は「シェード」や「ひさし」で日射をカット



※防火地域でシェード・ひさしを取り付ける際は、各自治体、建築主事などにご確認ください。